令和７年度 学校自己評価システムシート（県立川越工業高等学校 定時制）

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる力と自立する力を育成する

重点目標	1 学業に意欲を持たせ、基礎学力、技能の定着を図る 2 地域や家庭と連携した生徒指導・生徒支援を推進する 3 社会の中で自己実現できるキャリア教育を推進する

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	７名
	生徒	６名
	事務局（教職員）	１６名

学校自己評価

年度目標

年度評価（ １月２８日 現在）

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・多様な学力の生徒が在籍している。 ・授業規律が保たれており、生徒が安心して学習する環境が整っている。 【課題】 ・基礎・基本の習得、主体的に学習する態度の育成および基礎学力の定着。 ・現状と今後を見据えた教育課程の再編成。	・魅力ある教育活動の展開 ・基礎学力、技能の定着	①授業形態に対する意識調査を活用し、実態に応じた指導方法や活動例を協議する研修会を実施する。 ②教育課程の点検と見直しの着手 ①定期テストを通じ、生徒の学力を引き続き正確に把握する。 ②役割･分担を明確に意識した学習サポーターの活用 ③各種検定や資格に関する情報提供と受験･資格取得の奨励	①学校評価アンケート、職員面談等で生徒の学習意欲の向上が確認できたか。 ②教育課程は適切に編成されたか。 ①成績不振者に対する指導と追認定試験が実施されたか。 ②生徒アンケートにより高評価が得られたか。 ③検定合格者、資格取得者が現れたか。	**授業・学校生活満足度は91.7％(R6:88.1%)、登校･出席意識78%と高い水準を維持している** ①生徒のレポートや提出物の期限意識は 81.7%(R6:85.1%)。 ②令和９年度入学生の４年次選択科目群の再編成検討を行った。 ①４回の追認定試験の機会を設定。 ②昨年度から継続して学習サポーターを採用した。 ③第2種電気工事士をはじめとする各種資格試験に生徒が挑戦、合格者を表彰した。	A B	学習サポーター事業、補習等各教科きめ細かく生徒の学習支援を実施しているが、多様な学力の生徒が在籍しているため、成績不振者に目が行きがちになる傾向が強い。今後は上位者に対してのサポート体制と、更なる高い目標への意識づけが必要である。 学校内の課題をしっかり把握され、きめ細かな支援を実施している努力が見られる。
2	【現状】 ・情報発信を継続することで、地域との連携が育ちつつある。 ・日本語を母語としない入学生が増加している。 【課題】 ・学科、学年を超えた生徒間の相互理解及び多文化共生。 ・生徒一人一人に対する具体的な支援および各家庭や外部機関との連携の更なる充実。	・家庭、地域、関係機関と連携した教育相談、生徒支援 ・学習活動や学校行事を通じた生徒間交流の充実	①支援を要する生徒の要因を多角的に分析し、生活習慣や環境の調整の実施。 ②家庭・地域に向けた本校情報の正確な伝達 ③ＳＳＷ、ＳＣ、巡回支援員と連携した指導と支援 ①生徒会を中心とした、様々な学校行事の取組。 ②日本語支援員と本校教職員の連携による日本語教育	①特別支援委員を中心に支援態勢を整え、家庭・生徒に適切な支援が行われたか。 ②地域や中学校に本校の具体的な情報を伝えることができたか。 ③教職員と専門員との共通理解が図られたか。 ①行事を通じて生徒間の交流が図られたか。 ②日本語を母語としない生徒の日本語能力が向上したか。	**教育相談をはじめとする個に応じた支援体制の確立ができている** ①特別支援委員が中心となり生徒の情報共有の仕組みを構築した。 ②入学希望者に対し、全員個別に進路相談に応じた。 ③各専門員と綿密に連携し、様々な生徒の課題に対応した。 ①学校行事や部活動、ボランティア活動等を通じて生徒が積極的に取り組む姿が見られた。 ②通常の日本語補習以外に県主催のオンライン教室も実施した。	A A	ＳＳＷ、ＳＣ、巡回支援員との連携体制は定着し成果を上げている。今年度は校内の支援体制について検討を行った。支援が必要な生徒に対して情報共有する体制づくりを目指し、次年度は問題が表出する前に組織的に働きかけられるようにしていきたい。 生徒指導部、生徒会指導部を中心とした生活指導の取り組みにより、落ち着いた雰囲気の中で生徒は過ごすことができている。
3	【現状】 ・基本的生活習慣の定着は向上が見られる。 ・自分の適性が正確にわからず、進路の目標を見出せない生徒が存在する。 【課題】 ・進路情報提供の機会を増やすため従来の指導に加え、各企業や全日制との連携強化。 ・持続可能な挨拶運動、巡回指導の計画と実施	・基本的生活習慣の定着と社会性の向上 ・社会を生き抜く力の育成と生徒の進路実現	①自己表現力を高め、社会性向上に繋がる肯定的な指導の充実。 ②「成長への行動指針」を生徒･教職員の共通理解とする生徒指導。 ①「課題研究」「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育の充実。 ②進路実現に向けて就職者・進学者へ計画的な指導の実施及び情報提供。	①②出欠席等は改善したか、規律ある授業が展開できたか。 ①②社会人にふさわしい挨拶･言葉遣い･態度への変容が見られたか。 ①「課研」「総探」「授業」「LHR」を含め、社会人基礎力を育成する機会を複数回設けられたか。 ②進路決定率１００％が実現できたか。	**学年・分掌・学科の連携による進路指導体制の確立ができている** ①②出席率は 88.4％(R6:89.2％)、遅刻率は 4.1％(R6:3.3％) ①②挨拶運動は年間を通して実施 ①ハローワークや就職支援アドバイザー主催の情報交換会・説明会の積極的に参加した。校内での進路講話を学年ごと複数回実施した。(1～3年次は学期に1回、4年次は9回) ②進路状況は 29 名中、就職 16 名(学校斡旋 12、自己求職 4)、大学 3 専門学校 1名。(1/27 現在)	A A	校外行事や講演など様々な機会を通して生徒の社会性向上を図り、より良い人間関係構築に取り組む。 就職支援アドバイザー、進路指導部と各学年が連携し、系統的なキャリア教育を次年度も継続していく。

学校関係者評価

実施日 令和 ８年 １月 ２９日

学校関係者からの意見・要望・評価等
個々の基礎学力や意識に差異がある中でも、満足度調査が91.7%と高い水準であったことは大いに評価できる点と考える。 今後も学習サポーターの活用等により、きめ細やかなサポートをお願いしたい。 年齢・就労状況・学習歴・家庭背景など多様な生徒が在籍しているので、画一的な指導ではなく、個々の生活状況や学びなおしのニーズを前提とした柔軟な学習設計が必要である。
日本語を母語としない生徒も多い中、教職員・専門員の皆様には粘り強い対応をいただいていると認識しております。 学校からの情報発信は学習継続や安心して学校生活を送るための基盤である。紙・口頭に加え、ICT を活用したわかりやすく、確実に届く情報発信を行うことで、生徒の不安を軽減し、主体的な行動を促すことができる。
社会に出て活躍するためには、現在の学びをいかに実践に結び付け、将来の姿をイメージできるかが重要であると考える。 今後も生徒たちに様々な可能性を提示できるよう、施策の検討・実行をお願いしたい。 中学校においても、不登校等、集団生活への不適応は大きな問題である。高校においても同様だと思うが、継続でご指導願いたい。中高でのよりよい連携が図れるとよい。